

まるごと仏教ライフ

—浄土真宗のすすめ—

武田 晋

はじめに

私たちの身や心を悩ます苦悩の根本は、自分自身がこうありたい、こうしたいという思いであり欲望です。お釈迦さまは、この苦悩を四苦八苦とし、苦悩から解き放たれる解脱^{げだつ}を目指すべく教えを説かれました。

しかしながら、私たちの現実には、苦悩から解き放たれる修行の実践はおろか、心の平安を保つことも難しい日常です。ときに、思いも寄らない現実をつきつけられて唾然^{あざん}とすることも多いものです。また、夢を追い続けようと願うなかで、失ったものも一つや二つあるはずです。もしもあの日あの日、違う選択をしていたらば……。時間は心を置き去りにする場合があります。

そんな苦悩する私をいつもあたたかく見守り、そのままでもいいんだよと、不安な心や寂しい心、喜びの心に寄り添ってくださる確かな存在を持てるなら、苦悩の現実には変わらないかもしれませんが、前を向いて人生を歩んでゆけることでしょうか。

親鸞聖人は、限りなく愚かな私の人生に、智慧^{ちえ}の灯火^{ともしび}を掲げて導いてくださいます。苦悩を苦悩と照らされ、その苦悩をありのままに押さえて迷いを超えて往^ゆける道でもあります。「まるごと仏教ライフ」とは、親鸞聖人の掲げられた阿弥陀さまのみ教えを主とした仏教生活であり人生です。そのような生き方や日暮らしに少しでも触れていただき、お念仏を喜ぶご縁としていただけたら幸いです。

二〇一九（令和元）年十二月八日

慈珠山麓の寓居にて著者識す

目次

はじめに	2
第一章 み教えのある人生	
浄土真宗に出遇った人びと	8
仏教に触れる	20
第二章 時代の流れとともに	
悩む力を失った現代人	34
人生のリアリティ	49
浄土真宗の実践	76
第三章 信心をいただくとは	
無常の風のなかで	88
わが身の上に引きあてて―加害と被害	112
信心をいただくということ	125
第四章 浄土真宗の心で	
浄土真宗の生き方	170
阿弥陀さまの救い	184
心豊かに生きることのできる社会へ	194
あとがき	208

本文中、『浄土真宗聖典（註釈版）第二版』は『註釈版聖典』、『浄土真宗聖典七祖篇（註釈版）』は『註釈版聖典（七祖篇）』と略記しております。

第一章 み教えのある人生

浄土真宗に出遇った人びと

金子みすゞの故郷

一九九八（平成十）年のことです。私は、山口県長門市仙崎ながともしせんざきにあるJR西日本仙崎駅構内の「みすゞ館」を訪れました。彼女は、童謡詩人として児童文学作家の矢崎節夫先生（現・金子みすゞ記念館館長）により紹介され、テレビでも話題となりましたので、その名を知る人も多いことでしょう。

私が金子みすゞさんの名を初めて知ったのは、一九九二（平成四）年、浄土真宗本願寺派の仏教青年連盟開催による「全国真宗青年の集い」を山口教区が引き受けたときのことでした。そのとき、記念講演の一人としてお越しいただいたのが、矢崎節夫先生でした。当時は、地元の人でも金子みすゞさんの名はほとんど

知られていませんでした。仙崎駅の駅舎の一部とスーパーの一面に、資料展示があった程度です。後に、みすゞさんが幼少期を過ごした金子文英堂の跡地に金子みすゞ記念館がオープンしたのは、二〇〇三（平成十五）年のことでした。

金子みすゞさんは、祖母の影響から浄土真宗の法義にもご縁があり、小さい頃からよくお寺に連れて行かれていました。仙崎の真宗寺院である遍照寺へんじょうじに、みすゞさんのお墓もあります。「報恩講」をはじめとしたいくつかの真宗に関する詩もあり、彼女の詩が慈愛にみちているのは、そんな宗教的な背景があったからだと思います。二〇一一（平成二十三）年の東日本大震災の際にも、みすゞさんの優しい詩によって、多くの人たちの心が温められました。

共鳴するいのち

私の感動した詩に次のような作品があります。ゞざびしいときゞという詩です。

さびしいとき

私がさびしいときに、^{わたし}

よその人は知らないの。

私がさびしいときに、

お友だちは笑うの。

私がさびしいときに、

お母さんはやさしいの。

わたしがさびしいときに、

仏さまはさびしいの。^{ほとけ}

（『金子みすゞ童謡全集④ 空のかあさま・下』四八―四九頁、JULA出版局）

最初にこの詩を聞いたときには、何ということはない詩だなあ、とあまり気に留めませんでした。私が淋しいときに、他人は知らないという部分はわかるのですが、なぜお友達は笑うのかなと不思議に思ったのです。しかし、よく考えてみますと、私たちは本当に淋しいときに、それが深い悲しみのときには、口に出したり声にすることすらできない場合があります。また言葉にした途端に、自分が情けなくなったりもします。そして他人にはそれが一〇〇パーセント伝わることはありません。おそらく、みすゞさんに淋しい出来事があったときに、お友達は「そんなことは時間が解決するよ」とか「また頑張ればいいじゃない」と励まして、笑って対応したのかもしれませんが。